

研究成果報告書

課題名：Sharing Economy（共有経済）をめぐる国内状況とその分析

研究担当者：

リベラルアーツ研究教育院・教授・猪原健弘
大学院社会理工学研究科価値システム専攻・修士課程2年・増田大騎

研究方法：

シェアサービスのうち特に宿泊シェアサービスに注目し、申請書記載の方法に従って3か国の調査協力者に対してアンケート調査を実施、その結果を分析した。(1) 部屋を貸したことがない人と、(2) 部屋を借りたことがない人を中心に各評価項目の評価を行い、重要度を調査した。また各質問項目と宿泊シェア型サービスへの参加意思との相関係数を導出し、各国消費者の特徴を分析した。

研究成果：

1. サンプル数等

(1) 日本

サンプルは107人であった。貸し借り両方の経験があるのは4名で全体の3.7%であった。一方で貸し借り両方の経験がない方は66名で全体の61.7%であった。

(2) イギリス

サンプルは117人であった。貸し借り両方の経験があるのは8名で全体の6.8%であった。一方で貸し借り両方の経験がないのは47名で全体の40.2%であった。

(3) フランス

サンプルは124人であった。貸し借り両方の経験があるのは32名で全体の25.8%であった。一方で貸し借り両方の経験がないのは31名で全体の25%であった。

2. 部屋を貸さない理由

(1) 日本

「部屋に他者を入れたくない」、「貸す相手への信頼」が重要であることがわかった。

(2) イギリス

「貸す相手への信頼」、「法律」、「破損損壊」が重要であることがわかった。

(3) フランス

「法律」、「貸す相手への信頼」が重要であることがわかった。

3. 部屋を借りない理由

(1) 日本

「借りる相手への信頼」が重要であることが分かった。

(2) イギリス

「商品の質」が重要であることが分かった。

(3) フランス

「借りる相手への信頼」が重要であることが分かった。

4. 部屋を貸さない理由と将来の利用希望の間の相関

(1) 日本

いずれも極めて弱いものながら、「運営会社のサービス」、「周辺トラブル」に正の相関が見られた。

(2) イギリス

いずれも極めて弱いものながら、「貸す相手への信頼」、「法律」に負の相関が見られた。

(3) フランス

「貸す相手への信頼」、「法律」に正の相関があり、また、「周辺トラブル」に負の相関が見られた。

5. 部屋を借りない理由と将来の利用希望の間の相関

(1) 日本

相関を見出すことはできなかった。

(2) イギリス

極めて弱いものながら、「貸し出す相手への信頼」に負の相関が見られた。

(3) フランス

相関を見出すことはできなかった。

まとめ：

各国ともシェアサービスの利用を躊躇させる要因として取引相手への信頼が挙げられることがわかった。それに加え、日本においては運営会社の信頼も重要な要因であることがわかった。